

第 14 回ロシア化学熱力学国際会議：RCCT-2002

—菅 宏 名誉教授が全体講演—

標題の国際会議が7月1日～5日の期間、ロシアの美しい古都サンクト・ペテルブルクで開催された。1946年に開催された北米のカロリメトリー会議に対抗すべく、ソビエト連邦では1961年にモスクワで第1回全連邦熱測定会議が組織された。前者が毎年開催されており本年で第57回を迎えるのに対し、後者は2～3年毎の開催で本年が第14回目にあたる。名称も第8回からは全連邦熱測定及び化学熱力学国際会議となり、さらに今回の第14回からは国際顧問を導入し、ロシア化学熱力学国際会議と改めている。光栄なことに徂徠も国際顧問に任命された。組織委員長は二人おられたが Natalia A. Smirnova 教授が取り仕切られ、名誉委員長に相当する Yu. D. Tretyakov 教授は全体講演をされた。会議の直前に組織委員の一人である Nizhny Novgorod 州立大学の Boris V. Lebedev 教授（67歳）が急逝された。熱測定で著名な方である。心からのご冥福をお祈りする。

参加者はロシア国内から約300名、諸外国から60名、発表件数は全体講演7件、招待講演17件、一般口頭発表112件、ポスター発表385件と盛会であった。会議の公用語は英語だったが特に問題はなかった。ポスターでの質疑応答でロシア語しか通じない場面にも出くわしたが、誰かが通訳をかけてくれたので不便さは感じなかった。日本からは7名が参加し、菅 宏名誉教授が全体講演 "Frozen-in disorder in condensed phases" をされた。写真はその時のスナップである。立派な会場だったが、前の方の席からのスナップなので会場全体の雰囲気は伝わらず残念である。徂徠は招待講演 "Calorimetric investigation of the mixed-valence complexes showing both electron-transfer and spin-state conversion", T. Nakamoto, Y. Miyazaki, M. Itoi, Y. Ono, N. Kojima, and M. Sorai を行った。日本からの参加者の一人である立命館大学の大瀧仁志教授が、溶液化学・溶液熱力学の貢献でサンクト・ペテルブルク州立大学から名誉教授の称号を授与された。お慶び申し上げたい。

初めて訪問したロシアなので興味は尽きなかったが、特に印象深かったのはパステル調の美しい建物の街並みと、地下の深層部を走るメトロの駅の高速エスカレーターであった。対照的だったのは、廃車同然のぼろぼろのバスが堂々と運行されていることであった。エルミタージュ美術館はロシアが世界に誇る超一流の美術館だけあって、スケールの大きさとコレクションの素晴らしさを堪能したことである。「北のヴェニス」と呼ばれる水の都サンクト・ペテルブルクはネヴァ川のデルタ地帯に発達した町である。夕方から始まった会議のエクスカージョンはネヴァ川のク

ルーズであった。夜 10 時の解散時でも、白夜のため明るかった。

(徂徠道夫)



Emeritus Prof. H. Suga, presenting Plenary Lecture

**14th International Conference on Chemical Thermodynamics
in Russia: RCCT-2002
- Emeritus Prof. H. Suga presents a Plenary Lecture -**

This conference was held in St. Petersburg July 1 - 5, 2002. Conference Chairs were Prof. Natalia A. Smirnova (St. Petersburg State University) and Prof. Yu. D. Tretyakov (Moscow State University). The participants were 300 from Russia and 60 from foreign countries, of which Japanese were seven. Sorai served as one of the members of the International Advisory Board. The program consisted of 7 Plenary Lectures, 17 Invited Lectures, 112 contributed papers, and 385 poster presentations. Active areas were solutions, surface phenomena, new materials, and heterogeneous systems. Emeritus Prof. Hiroshi Suga presented a Plenary Lecture under the title "*Frozen-in disorder in condensed phases*" and Sorai gave Invited Lecture of the title "*Calorimetric investigation of the mixed-valence complexes showing both electron-transfer and spin-state conversion*" T. Nakamoto, Y. Miyazaki, M. Itoi, Y. Ono, N. Kojima, and M. Sorai. Just before the Conference Prof. Boris V. Lebedev (67 years old), a well-known calorimetrist, of Nizhny Novgorod State University passed away. His death is a great loss in the community of thermodynamicists. We express our condolences.

(by M. Sorai)